

6年 総合 平和学習 戦争と平和を考える読み物(意東小学校に所蔵分のブックリスト)

戦争と平和を考える読み物

2015年 意東小学校図書館

名前 (

)

	件名	書名	作者	出版社	紹介	出版年
1	広島原爆 210	絵で読む広島原爆	那須正幹 西村繁男	福音館書店	二人の作者が長年広島で取材を行い、原爆が落ちる前の広島、落ちてからの広島、原爆の恐ろしさを伝える、調べ学習にも使える内容。	1995年
2	広島原爆 319	さがしています	アーサー・ピナード	童心社	広島原爆で被害にあった人たちが残した物たちが、語りかけてくる。持ち主を探している。 アメリカ人のピナードさんが作ったことで話題。	2012年
3	広島原爆 913	よっちゃんのビー玉	児玉辰春	新日本出版社	実男は、年の離れた弟のよっちゃんをとともかわいがっていた。8月6日、よっちゃんはビー玉をもったまま、被爆。よっちゃんはさいごまで、ビー玉のことを言って、死んでしまう。原爆資料館にある、解けたガラス瓶にまつわる実話をもとにかかれた物語。	1990年
4	広島原爆 913	まっ黒なおべんとう	児玉辰春	新日本出版社	折免滋君はお母さんがつくってくれたお弁当を持って、元気よく出かけて行った。しかし、彼がもどってくることはなかった。骨になった滋を確かめるすべは、彼が持っていたまっ黒なお弁当だった。	1989年
5	広島原爆 913	いわたくんちのおばあちゃん	天野夏美	主婦の友社	いわたくんのおばあちゃんは、1945年8月、原爆の落ちる数日前に家族写真を撮った。しかし、その写真を見ることができたのは、おばあちゃんだけだった。家族は皆、原爆のために死んでしまったから…。おばあちゃんは、カメラを向けられると、「いやーよ」と言うのは、なぜ？	2006年
6	広島原爆 913	ヒロシマのいのちの歌	鈴木ゆき江	ひくまの出版	知里は、あやのおばあさんに「かあさんエノキ」の話をしてもらうのが大好き。でも、8月6日から先のことは聞かせてもらえない。エノキを心の支えにしてきた人々の心の交流。平和への願い。	2001年
7	広島原爆 913	ふたりのイーダ	松谷みよ子	講談社	直樹とゆう子は「イナイ、イナイ、ドコニモイナイ」と、歩き回るイスと出会う。イスは8月6日の朝、出かけたまま帰ってこないイーダを待っていた。戦争、原爆がもたらした悲しみを描く。	2006年
8	広島原爆 913	おこりじぞう	山口勇子	新日本出版社	広島町の笑い地蔵は原爆で吹き飛ばされ、目の前で苦しむ子どもたちを見て、おこり、ついに頭がぐちゃぐちゃになる。その後、頭に丸い石をのせられたが、それもおこり顔になった。原爆へのいかりを描く。	1982年
9	広島原爆 913	リトルボーイ	吉本直志郎	ポプラ社	原爆で家族も家も失い、孤児になった子ども達。いつしか寄り添い、暮らし始め、悲しみを乗り越えて成長していく物語。	2005年
10	広島原爆 916	わたしがちいさかったときに	長田 新編	童心社	原爆を体験した子ども達が、数年後に手記を残している。思い出したくない辛い体験を振り返って書いた貴重な手記。	1967年
11	広島原爆 913	朝の別れを ヒロシマ、母と子の物語	大野充子	ポプラ社	8月6日の朝、ミチは市内のほぼ中心部で、母マサノは自宅で被爆した。マサノはミチを探しに行くが、出会った娘は上半身がひどいやけどだった。被爆後の苦しみから、すこしずつ希望を取り戻していくミチの姿を描く。	2001年

12	広島原爆 916	いしぶみ 広島二中1年生全滅の記憶	寺田志桜里	ほるぷ社	戦時中、育ち盛りの中学生在が、食べ物もほとんどない、夏休みもない、勉強も落ち着いてできない、そんな状況の中、わずかな希望をもち暮らしていた。しかし、原爆が全てを奪ってしまった。中学1年生の少年達の最期の記録。	1985年
13	広島原爆 913	白い町ヒロシマ	木村靖子	金の星社	昭和20年、靖子一家は雪の広島へ引っ越す。学童疎開した靖子は、原爆よって母、姉、弟を亡くしたことを知る。作者の体験を描き、平和を訴える物語。	1985年
14	広島原爆 913	うそつき咲っぺ	長崎源之助	佼成出版社	40年ぶりに戻った広島で、道子は被爆体験を語る同級生の咲子のみかける。しかし、咲子は被爆していないはず…。なぜ、咲子は被爆体験を生々しく語っているのか。家族が死に、自分だけ生き残った咲子の苦しみとは。	1995年
15	広島原爆 916	折り鶴の子どもたち	那須正幹	PHP研究社	原爆の子の像のモデルとなった禎子(さだこ)さん。禎子さんがなぜ、どんな気持ちで折り鶴をおりはじめたのか、禎子さんが亡くなったあと、同級生達はどんな思いを持っていたのか。原爆の問題を問いかける。	1984年
16	広島原爆 916	禎子の千羽鶴	佐々木雅弘	学研	原爆の像のモデルとなった、佐々木禎子さんが歩んだ短い一生を、お兄さんが心をこめて書いた。	2013年
17	広島原爆 916	ぼくは満員電車で原爆を浴びた	米澤鐵志	小学館	戦争が始まってからの苦しい生活、満員電車の中で被爆した経験、原爆症にくるしめられたこと。広島を生き抜いた少年の本当のお話。	2013年
18	広島原爆 E	海をわたった折り鶴	石倉欣二	小峰書店	広島で被爆し、白血病で亡くなったサダコさん。サダコさんが折った鶴が海をわたって、ニューヨークのトリビュートセンターに展示されている。サダコさんの折り鶴はなぜ海をわたったのか。	2010年
19	広島原爆 913	原爆の火	岩崎京子	新日本出版社	終戦後、広島のおじの家をたずねたヨシオは、そこにくすぶっている火をおじの形見として故郷へと持ち帰った。福岡県星野村から世界へと広がった原爆の火の話。	2000年
20	広島原爆 916	平和をねがう「原爆の図」	楠しげお	銀の鈴社	画家の丸木位里(いり)・俊(とし)夫婦が広島に入って目にしたことを絵に描き残している。彼らの思いを伝える物語。	2012年
21	広島原爆 E	ひろしまのピカ	丸木 俊	小峰書店	親子3人で朝御飯を食べていたときに被爆したみいちゃんは、箸を持ったまま両親と逃げる。被爆体験を心の奥深く沈めていたおばあさんが、語った話をもとに描かれた絵本。	1980年
22	広島原爆 916	はだしのゲン わたしの遺書	中沢啓治	朝日学生新聞社	「はだしのゲン」を描いた中沢さんが、苦しかった当時のことを思い出して、語り伝える。ときおり、「はだしのゲン」の場面使われており、マンガと合わせて読むと、より理解が深まる。	2012年
23	広島原爆 726	はだしのゲン	中沢啓治	汐文社	中沢さんの被爆体験をもとに描いたマンガ	1975年
24	広島原爆 E	ヒロシマのいのちの水	指田 和	文研出版	宇根利枝さんの亡くなった人たちへの献水の思いを絵本にした。	2009年
25	広島原爆 E	かあさんのうた	大野充子	ポプラ社	原爆が落ちた日の夜、迷子の坊やを抱いて歌っていたのは、おさげの女学生。母さんと呼び続ける坊やをほっておけなかった。	1977年
26	広島原爆 E	伸ちゃんのさんりんしゃ	児玉辰春	童心社	伸ちゃんの宝物は、おじいちゃんくれた三輪車。原爆資料館にある、原爆で黒焦げになった三輪車にまつわる、実話をもとに描かれた絵本。	1992年

27	広島原爆 E	ヒロシマのピアノ	指田和子	文研出版	原爆の被害をうけたピアノ。1度音を失ったピアノが、ふたたび音を取り戻すことができるのだろうか。	2007年
28	広島原爆 E	とうろうながし	松谷みよ子	偕成社	ある年の8月6日、とうろう流しが行われた。しかし真夜中に、火の消えたとうろうが沖から潮にのってもどってきた。	1985年
29	広島原爆 E	ヒロシマに原爆がおとされたとき	大道あや	ポプラ社	広島出身の作者が原爆の恐ろしさを、語り描いた絵本。	2002年
30	広島原爆 E	ひろしまのエノキ	長崎源之助	童心社	原爆で傷ついたエノキは広島を物語る。平和への願いを込めて、子ども達はエノキを守りつづけた。	1988年
31	広島原爆 E	海をわたったヒロシマの人形	指田和	文研出版	原爆がおとされた後のヒロシマで拾われた人形は、海をわたってアメリカへ行った。そして60年以上たった今、ヒロシマに戻り資料館に展示されている。人形はだれが持っていたのだろうか。	2011年
32	広島原爆 916	被爆者 60年目の言葉	会田法行	ポプラ社	戦後60年に出版された。被爆され方の願いはひとつ。この世の中から核兵器がなくなること。この本では5人の方が紹介されている。顔や体に大きな傷を、そして心にも傷を負い、生きていることがつらいそんな60年を振り返る。谷口さんは、今年の長崎平和祈念式典のとき、被爆者代表で挨拶をした方。	2005年
33	広島 319	10代がつくる平和新聞 ひろしま国	中国新聞社編	明石書店	2007年から中国新聞にはさみこまれていた「ひろしま国」は、小学生から高校生の子ども達が、書いた平和に関する記事。子ども達が取材をして、子ども達の目線から真実を知り、平和を考える。	2009年
34	長崎原爆 916	娘よ、ここが長崎です	筒井茅乃	くもん出版	原爆投下後の長崎で、病床から原爆の悲惨さを訴え続けた永井隆博士。その娘が、自分の半生、父の生き様を描き、次世代の人々へ平和の願いをつたえる。	1985年
35	沖縄 916	白旗の少女	比嘉富子	講談社	沖縄戦。三角の白い旗をもった少女の写真がある。大人になった少女富子さんが、この写真を見つけたのは1977年のこと。富子さんはこの写真を取ったアメリカ人をさがしだす。そして、少女の頃の辛い体験を、語り、白旗のいきさつを語り始めた。	1989年
36	沖縄 913	さとうきび畑の唄	遊川和彦	汐文社	幸せだった沖縄に住む家族。しかし、その幸せな時を戦争が奪ってしまう。	2004年
37	沖縄 913	あけもどろの空 ちびっこヨキの沖縄戦	高柳杉子	子どもの未来社	6歳のヨキが見た、沖縄での戦争の記憶を、子どもの目線と言葉で描かれている。「あけもどろ」とは、太陽が東の空を染め始める空をあらず沖縄の言葉。	2010年
38	沖縄 913	かんからさんしん	嶋津与志	理論社	さんしんは沖縄の三味線のこと。沖縄では、兵隊だけでなくたくさんの住民が犠牲になった。みなガマに隠れて、アメリカ軍におびえながら、日本の勝利を信じていた。捕りよになるなら自決(自殺)するという人がたくさんいた中、たくましく生きようとする子ども達が描かれている。	1990年
39	沖縄 913	つしま まる 対馬丸 さようなら沖縄	大城立裕	理論社	1944年、沖縄から本土に向けて疎開(そかい)する船がでた。戦火から逃れるための疎開だったが、対馬丸は攻撃を受け沈没。海をさまよって助かる者もいたが、789人の子ども達が命を落とした。本当にあった話。	1982年
40	東京 913	東京大空襲ものがたり	早乙女勝元	金の星社	東京の下町に、焼け残りの電柱があった。1945年3月10日、東京はB29の爆撃で火の海となった。その時の焼け残ったものだ。今もなお、歴史の生き証人として電柱が保存されている。	1991年

41	東京 913	うしろの正面だあれ	海老名香葉子	金の星社	香代子はたくさんの兄弟に囲まれ幸せに暮らしていたが、太平洋戦争が始まり、一人疎開することになった。疎開中、東京大空襲のため家族が亡くなってしまう。香代子は悲しみを乗り越えることができるのか。	1991年
42	東京 913	ネーネ。	海老名香葉子	くもん出版	戦争中でも、家族がそろっていれば幸せだった。しかしすさまじい空襲によって、その幸せが消えてしまう。作者の経験をもとに書かれた物語。	2007年
43	東京 913	半分のさつまいも	海老名香葉子	くもん出版	『ネーネ。』の続編ともいうべき物語。戦争が終わってもなお、作者を苦しめたこととはなにか。	1997年
44	東京 913	ガラスのうさぎ	高田敏子	金の星社	7歳だった敏子が東京大空襲で、家族を失い、絶望の中、たくましく生きようとする。作者自身の体験を物語にした。	2000年
45	疎開 E	お母ちゃんお母ちゃーんむかえにきて	奥田継夫	小峰書店	戦争中、「お母さん、さようなら。勝つ日までがんばってきます」と、疎開地の島根県へと向かう子ども達。疎開地で待ち受けていたのは、けんかとシラミと空腹とさみしさだった。いつもおかあさんに会える日を夢見ていた。	1985年
46	その他 913	青い風船	宮内純子	くもん出版	戦争末期、日に日に追いつめられていく中で、日本は新しく兵器を開発した。それは、風船爆弾と呼ばれるものだった。うすい和紙を張り合わせてつくるものだが、その製造には、全国の女学生が協力した。だが、女学生たちは自分たちが何を作っているのか知らされていなかった。	2010年
47	その他 E	さくら	田畑精一	童心社	戦争体験の手記と写真で当時の様子を感じることができる。	2012年
48	その他 913	約束「無言館」への坂をのぼって	窪島誠一郎	アリス館	戦争で亡くなった画学生的美術館「無言館」にまつわる話。戦場から帰ってこられなかった若者の想いを伝えている。	2010年
49	その他 916	犬やねこが消えた日 ～戦争で命をうばわれた動物達の物語～	井上こみち	学研	第二次世界大戦の末期、飼い犬や飼い猫が連れていかれた。動物達も戦争の犠牲者になったお話。いったい何に使われたのだろうか。	2008年
50	その他 E	おとなになれなかった弟たちに……	米倉斉加年	偕成社	作者は弟を太平洋戦争で亡くし、戦争の悲惨さ、悲しみ、平和への願いを込めて、この絵本に描いた。戦時中の生活の苦しさが描かれている。	1983年
51	その他 E	はらっぱ戦争・大空襲・戦後～いま	西村繁男	童心社	「はらっぱ」を通して、ある町の60年間の移り変わりが描かれている。	1997年
52	広島ほか 914	せんそうってなんだったの？		学研	本当にあった4つのお話。戦争と遊び、戦争と家族、戦争と空襲、戦争と原爆。戦争によってあらゆるものの運命が変わってしまった。すべてが不幸になる戦争ってなんだったのか？	2013年
53	特攻隊 E	すみれ島	今西祐行	偕成社	何時間後には確実に死ぬとわかっている特攻隊の若者達と、小学生達との交流。美しく悲しいお話。	1991年
54	その他 E	土のふえ	今西祐行	岩崎書店	北と南の国が戦争をしていた。冬のざんごうにひそむ兵隊たちに、土の笛の音が聞こえてきた。その音はなつかしい故郷を思い出させる。そして笛の音が奇跡を起こす。	1998年
55	その他 916	わたしたちの戦争体験 1～10		学研	全10巻の戦争体験記 読みたいテーマから選ぶと良い ①戦場 ②家族 ③学校・遊び ④疎開 ⑤空襲 ⑥沖縄 ⑦原爆 ⑧終戦 ⑨引揚 ⑩成長・発展	2010年